







<貸してあげなさいとは言いません>  ~   ~   ~ 

ある日のこと、消防車で遊ぶ仲間に「あとで貸してな！」と言ってから、ず〜っと待ち続けている子がいました。消防車で遊ぶ仲間はまったく貸してあげる気はありません。仲立ちする保育士は別の玩具を提案したり、言葉にして伝えることを手伝ってみたり、気持ちを受け止めてあげたりと頑張っています。

けっこうな時間が経ちました。険しい顔です〜っと待ち続けるその子が少し不憫に思い、消防車の仲間に声をかけます。「となりで走ろっか?」「え!?はしる〜!!」目を輝かせ隣の部屋に向かう仲間に「走るなら消防車はおいてから」と声をかけると「うん!」と消防車を手放します。嬉しそうに他の子たちも次々に隣の部屋へ。

<仲間のもとへ>    

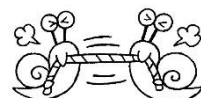
待ち続けたその子は無事に消防車を手に入れる事ができました。良かったねえ〜!ところが、険しい顔が笑顔に変わりません。あれだけ待ち続けたのに。どうして? 「もういらん!」そう言ってその子は仲間たちのもとへ。一緒に走りながら、やったくしゃくしゃの笑顔を見せてくれました。もしかすると、その子が本当に必要だったのは消防車じゃなかったのかもしれない。



<子どもに諭されたお話>

また別の日には4人の仲間がひとつの箱と一緒に運んでいました。「わっしょい! わっしょい!」と楽しそう。その輪の中に小さな仲間が入ろうとすると、4人の中の1人が「ダメ!」とその子を突き飛ばします。「え〜ん」と泣いている小さな仲間を抱っこして窓の外を見れば、ショベルカーが動いているじゃありませんか!

「わ〜!ショベルカー動いてる〜!すごいねえ!」とか言っていると、4人は箱を放り投げて「だっこして!だっこして〜!!」と必死です。すっかり泣き止んでいる彼女に「どうする?かわってあげる?」と聞くと「いいよ〜」って。やさしいねえ。そこで順番に抱っこしてショベルカーを見せてあげました。



<ああ…落ち込む>

私は彼女を突き飛ばして「ダメ!」って言った仲間には少し腹を立てていたのだから抱っこしてやらん!と思って、他の3人を順番に抱っこして、「すごいねえ!」って盛り上がり、もういちど彼女を抱っこしてあげました。すると彼女は不思議そうに「つぎ〇〇!」と自分を突き飛ばした仲間の名前を口にしましたのです。つくづく自分の心の狭さを痛感させられたのでした…。



<そこに愛があるのなら>

私たちは正解が難しい子どもの世界にまみれています。“わからない”そう思うと愛情不足かも?と不安になって、育児本やインターネットなどで調べて、ネガティブな文章にまた不安になります。しかし、子どもに対して愛情がない人は、愛情不足かもしれない?なんて悩んだりしません。正解や不正解があったとしても、それが愛情のあるなしではありません。悩んでいる私たちは、愛情で満ち溢れてる!でしょ?

きたおおじアルバム

